

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

55

## 価値再認識

新型コロナウイルスとの戦いの中で、プラスチックの価値が再認識されている。衛生上の懸念から使い捨て可能なプラスチック製品の需要が伸びているとされている。プラスチックは軽量、安価、高機能といった特徴を持ち、人類に多大な社会的、経済的便益をもたらしてきた。今回の事態は図らずもその一端を改めて認識する機会にもなっているようだ。

一方、プラスチックゴミ問題が国際社会の懸念事項の一つになっ

合(EU)では、製品ある。

## EU規制障壁に

中意的に配合されるプラスチックマイクロビーズなどの使用を包括的に制限するためEU規制障壁に

そこではSEIAC(国際環境毒性学会)とICCA(国際化学工業協会協議会)が連携してMPの環境リスクを評価するための基

礎となる。このように産業界として積極的に関与し、経済的に多面での影響を及ぼす可能性がある。従って日本も国

への懸念もあると考えられる。枠組みの検討とそれに基づく実際の評価は今後10年間で大きく進展すると予想される。

こうした動きは社会的、経済的に多面での影響を及ぼす可能性がある。従って日本も国への懸念もあると考えられる。枠組みの検討とそれに基づく実際の評価は今後10年間で大きく進展すると予想される。

環境リスクの解明は新素材開発などにも有

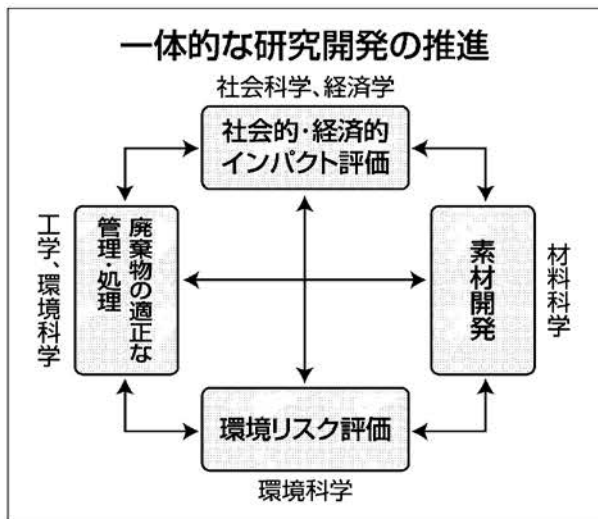
# マイクログプラスチック環境リスク評価を



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー/ユニットリーダー(環境・エネルギーユニット)

中村 亮二

首都大学東京大学院博士後期課程修了、博士(理学)。環境・エネルギー分野を幅広く担当。最近では「戦略プロポーザル環境調和型プラスチック戦略」(2020年3月)を作成。



(金曜日に掲載)